

MJIIT 副院長・山本隆司先生退官にあたって

平成27年2月26日、マレーシア・日本国際工科院（MJIT）副院長、日本の代表の役割を果たされた山本隆司先生（東京農工大学名誉教授）は、2013年4月～2015年3月、正式には3月9日をもって本学をご退官されます。山本先生には、日本政府とマレーシア政府間で立ち上げた ASEAN 諸国で代表的な MJIT と筑波大学との連携に関し、特段のご支援をいただき感謝にたえません。

ご退官にあたっての司会を仰せつかった杉浦のほうから、最終講義をお願いしたところ、そのような硬い話ではなく「雑感」として、しかも日本人教員のみにも聞いていただきたいとのことで、とくに MJIT 後藤雅史教授、岩本浩二准教授、原啓文准教授の協力のもと開催致しました。MJIT の設立の経緯について、大変下準備がかかっていたことを知りました。山本先生ご自身が2001年から2011年までおよそ10年間関わっておられ、そして2011年8月1日に開校しました。山本先生は、もともと東京大学工学部航空学科のご出身でその後、東京農工大学で教鞭をとられ、その間、USA の NASA-Lewis Research Center (現 NASA-Glenn Research Center) で研究されていますが、専門は、航空機、新幹線、自動車の心臓部ともいえる駆動系部分の回転軸を支える「転がり軸受」の大家で、他に航空機事故・自動車事故の鑑定人なども経験されています。

印象に残ったことを以下に書かせていただきます（杉浦）。山本先生は恩師である曾田範宗先生のお言葉をよく引用されています。また山本先生は、大日本帝国海軍双発爆撃機「彗星」の設計主務者である山名正夫先生の薫陶を受けていたとのことでした。そのなかで山本先生が強調されたことは、自然に学べ、ホンモノを目指せ、そしてホンモノは寡黙である、とのことでした。

そして教員としての役割は、中立者、審判者、時代の証人であり、一方でサービス業でもある、また大学は論理と倫理で運営される組織であると言われました。そして世すなわち社会において産業分野での技術者精神として、優れた技術が実用化され、世に受け入れられるとは限らないことを踏まえ、High Technology のリスク、Low Technology と言われながらも高い信頼性のある技術の重要性、信頼性のある技術の確立には、事故、経済的・人的損失を通して長い期間の実証・検証を待たなければならないことなどに言及されました。最新技術を駆使したというイメージがあるロケットについても、当の責任者は、「Low Technology が基盤に存在すると言っている」ことや、工業製品の製造などで、畑村洋太郎（東京大学名誉教授）先生の言葉、しっかり継承していたずらに改変してはならない「封印すべき技術」という発想が参考になると強調されました。工業製品については確立した信頼性のある技術を使うべきであって、つまりユーザーを考え、安心・安全そして経済性に優れた製品を提供するべきであると話されました。

最後に日本政府とマレーシア政府で立ち上げた MJIT について、日本の先端研究・技術のノウハウを理解、応用しうる教育・研究手法を導入した ASEAN 諸国を代表する国際教育・研究の拠点にしたいと言われました。

文責：杉浦則夫（MJIT 教授/筑波大学特命教授）



講義を終えて

前列：左) 新副院長小林史典先生、元副院長山本隆司先生

後列：左) 杉浦則夫、後列：右) 岩本浩二先生



ツインタワー背景にて

前列：左) 4人目、山本隆司先生、5人目杉浦則夫

後列：左) 5人目、岩本浩二先生